

事務事業チェックシート

事務事業No 231 事業名 ボランティア講座開催事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		民生費	
	項		社会福祉費	
	目		社会事業費	
	大事業		社会事業	
事項		ボランティア講座開催事業		

[長期総合計画]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	2	高齢者・障害者支援の充実
施策	2	障害のある人の自立と社会参加の推進
基本方針	1	社会活動への参加促進

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標	IV	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る
政策	4	誰もが暮らしやすいまちづくり
施策	ウ	障害者福祉の推進

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	障がい者福祉の推進			

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	～		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市障害者計画		
担当課・担当課長 (Tel)	障害者支援課	坂下 雅朗 (435-1060)	
関連課			

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容					
事業概要	一般市民を対象にボランティア講座を開催してボランティアを養成し、福祉の増進を図る。		手話初級・中級コース、点字講座、朗読講座を開催する（社会福祉協議会に委託）。				
実施内容		平成25年度 ボランティア講座を開催する。 延修了者数 74人	平成26年度 ボランティア講座を開催する。 延修了者数 78人	平成27年度 ボランティア講座を開催する。 延修了者数 80人	平成28年度	平成29年度	

2 事業コスト

		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費等 千円	事業費	756	714	759	743	752	696				
	伸び率 (%)	-	-	0.4%		-0.9%		-100.0%		-	
	人件費	常勤職員	2,302	2,302	2,302	2,487	2,484	2,526			
		非常勤職員	0	0	0	0	0	0			
		小計	2,302	2,302	2,302	2,487	2,484	2,526			
	国庫支出金										
	県支出金										
	市債										
	その他										
	一般財源（税等）	756	714	759	743	752	696				
所要人数	常勤職員	0.31	0.31	0.31	0.33	0.33	0.33				
	非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0				
主な予算内訳		委託料									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	講座開催回数					年度目標値	80	80	80	
						実績値	80	80	80	
	単位	回	全体目標値	80	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%
							年度目標値			
成果指標	延べ修了者数					年度目標値	100	100	100	
						実績値	74	78	80	
	単位	人	全体目標値	100	全体目標達成度	80.0%	年度別達成度	74.0%	78.0%	80.0%
							年度目標値			
						実績値				
						年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	○ 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	ボランティア養成はコミュニケーション支援に欠かすことの出来ない事業である。
「見直し」 「改善」案	既存のボランティア講座に代えて、H28年度から意思疎通支援奉仕員養成事業を実施し、不足する意思疎通支援者の充実を図る。